

まちづくり交付金 事後評価シート
木次大橋周辺地区

平成20年12月

島根県雲南市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 島根県 | 市町村名 | 雲南市 | 地区名 | 木次大橋周辺地区 | | | 面積 | 111ha | | | | |
|---------------------------------------|---|-------------------------------|--|--|--------------------------|---|----------|--|--------|--------|--|---|---------|
| 交付期間 | 平成16年度～20年度 | | 事後評価実施時期 | 平成20年度 | | 交付対象事業費 | 2,175百万円 | 国費率 | 0.4 | | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | | |
| | | | 基幹事業 | (都)出雲西城線(新市工区)、(都)下熊谷中央線、(都)下熊谷東西線、下熊谷14号線、中組共和線、(主)松江木次線、下熊谷河川敷公園、里方東広場、下熊谷地区交流センター | | | | | | | | | |
| | | | 提案事業 | 歴史民俗資料館 | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 事業名 | | | 削除/追加の理由 | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | | |
| | | | 基幹事業 | 新市中線 新市線 木次幼稚園線、新市西広場 下熊谷3号線 下熊谷4号線 | | 合併による教育施設の統廃合計画等が策定されず削除 財政状況を勘案し、事業期間内で整備できなくなったため削除 | | 指標3に影響するため、数値目標を減とした 指標3に影響するため、数値目標を減とした 影響なし | | | | | |
| | | | 下熊谷15号線 (都)松江木次線、赤羽根線 共和学校線 中組西線、下熊谷中央広場、下熊谷南広場 | 雨水排除事業が事業期間内で整備できないため削除 地元協議会と協議した結果、実施困難となり削除 | | 指標2に影響するが、数値目標は据え置く 指標2に影響するが、数値目標は据え置く 指標3に影響するため、数値目標を減とした 指標2に影響するが、数値目標は据え置く 指標3に影響するため、数値目標を減とした 影響なし | | | | | | | |
| 新たに追加した事業 | | 提案事業 | なし | | | | | | | | | | |
| | | 基幹事業 | 新市公衆トイレ | | 地元より要望があり、地域活動を支援するため追加 | | 影響なし | | | | | | |
| | | 提案事業 | なし | | | | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成16年度～20年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | | | | | | |
| | | 変更 | 平成 年度～ 年度 | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | (総合所見) | 予定時期 | | |
| | 指標1 | 公共施設の利用者数 | 人/年 | 43,515 | H15 | 48,000 | H20 | 47,000 | 50,000 | あり | あり | 本事業で新たに整備する下熊谷地区交流センター、歴史民俗資料館により公共施設利用者数が増加すると見込まれる。また道路・歩道整備により、利便性が向上することによる効果もある。 | H22年5月頃 |
| | 指標2 | 未利用地面積の減少 | ha | 14.3 | H15 | 12.3 | H20 | 12.6 | 12.1 | あり | あり | 本事業の道路整備、三刀屋木次ICの整備及び三刀屋木次IC周辺の国道54号線の4車線化計画等の都市基盤施設の整備により、民間事業者によるアパート建設等が促進され予想を上回る宅地化等が進み、未利用地が減少してきている。また、道路等公共事業の用地買収により未利用地面積が減少した。 | H22年5月頃 |
| 指標3 | 歩行者ネットワークの整備延長 | m | 1,582 | H15 | 3,757 | H20 | 2,300 | 3,837 | あり | あり | 本事業での歩道整備及び地区内で整備している他事業の歩道整備により、歩行者ネットワークの整備延長が増加し、目標を達成する見込みである。 | H22年5月頃 | |
| | | | | | | | | | | なし | なし | | |
| 3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | (総合所見) | 予定時期 | | |
| その他の数値指標1 | 運動施設の利用者数 | 人/年 | 8,222 | H15 | | | | | | | | 下熊谷河川敷公園、里方東広場及びゲートボール場に隣接する新市公衆トイレの整備により、利用者数が増加すると見込まれる。また道路・歩道整備により、利便性が向上することによる効果も一部発現すると思われる。 | H22年5月頃 |
| 4) 定性的な効果発現状況 | <p>・下熊谷地区及び周辺の都市基盤整備により下熊谷地区の人口が増加している。</p> <p>・道路や歩道整備により、安全安心な歩行空間が確保され公共施設への移動がしやすくなると思う。歩道に植樹することにより、景観の向上だけでなく木陰ができて歩行者や自転車の休憩場所が確保されて良いと思う。などの意見があった。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | |
| | モニタリング | 中間モニタリング | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた | | | | 目標の達成状況・事業の効果を確認することができた。また、モニタリングにより指標の変更、事業の見直しを行った。 | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した | | | | | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | |
| | 住民参加プロセス | 歩道植栽の樹種の選定のための検討会 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた | | | | 道路事業において、歩道植栽の樹種の選定について、地元組織及び地元住民と検討会を開催し決定した。 | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した | | | | | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | 地元組織を中心とした地元住民による歩道や公園の環境整備活動 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた | | | | 環境整備活動の体制構築に向けて、地元組織を中心とした地元住民と検討中である。今後も環境整備活動の体制構築について協議していく必要がある。 | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した | | | | | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | |

様式2 - 2 地区の概要

| 木次大橋周辺地区(島根県雲南市) まちづくり交付金の成果概要 | | | | | | | | | |
|--|--|----------------|---------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| まちづくりの目標 | | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
| 大目標: 地域課題に対応した道路網の整備を進め、雲南市の中核としての拠点機能を高めるとともに、(旧)木次町の中心市街地の活性化を図る。 | | 公共施設の利用者数 | 単位: 人/年 | 43,515 | H15 | 48,000 | H20 | 50,000 | H20 |
| 目標1: アクセス道路の改良、改善を行うことで交通利便性の向上を図り、中心市街地への来街者数の増加を図る。 | | 未利用地面積の減少 | 単位: ha | 14.3 | H15 | 12.3 | H20 | 12.1 | H20 |
| 目標2: 宅地開発のニーズが高い地区については、生活道路等インフラ整備を図り、住宅地のスプロール化を防止するとともに、魅力ある居住環境の整備を図る。 | | 歩行者ネットワークの整備延長 | 単位: m | 1,582 | H15 | 3,757 | H20 | 3,837 | H20 |
| 目標3: 高齢化社会に対応した、歩道のネットワーク化や歩行者空間のバリアフリー化など交通安全性の向上を図り、安全で安心な歩行空間を創造する。 | | 運動施設の利用者数 | 単位: 人/年 | 8,222 | H15 | | | 10,000 | H20 |
| | | | 単位: | | H | | H | | H |

下熊谷河川敷公園 (基幹・公園)

里方東広場 (基幹・地域生活)

市道下熊谷14号線 (基幹・道路)

都市計画道路出雲西城線(新市区) (基幹・道路)

都市計画道路下熊谷東西線 (基幹・道路)

都市計画道路下熊谷中央線 (基幹・道路)

| | |
|---------------------|--|
| まちの課題の変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路、歩行空間の整備により交通利便性が向上し、中核拠点性が高まった。 ・下熊谷地区の道路網の整備、歩行空間の整備など都市基盤整備により宅地化が進み、定住促進につながった。 ・安全安心な歩行空間の整備により、歩行者ネットワークの整備延長が増加した。 |
| 今後のまちづくりの方策(改善策を含む) | <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境が向上して定住人口が増加するように、地元組織を中心とした地元住民による歩道や公園の植栽管理や除草作業等の環境整備活動を継続して行う。 ・安全安心な歩行空間を持続していくため、歩道や公園の植栽管理や除草作業等の環境整備活動を、地元組織を中心とした地元住民と連携をとりながら行う。 ・都市基盤整備により交通利便性が向上した下熊谷地区では、定住促進を目的とした快適な居住環境や良好な雇用環境を形成するために、物流拠点となるような流通系企業やショッピングセンター、便施設などの商業系企業の誘致活動を継続して行う必要がある。 |